校友時報

昭和44年12月20日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

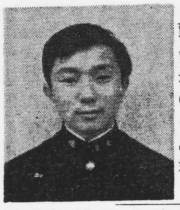
波乱含みの役員選挙

後期役員改正

副会長に小島君

十月一日に公示され、延々となっていた後期生徒会副会長選挙は、現在会長候補に決まっている三人によって争われる。現在会長候補には、二年の渡辺正志君、工藤公英君、一年の蓬田孝子さんらが名を連ねている。選挙戦はどの様になるか待たれる。また、先の選挙で二Bの小島四郎君が副会長に当選した。

現在までの経過を辿ってみると、まず、十月一日に公示されて一週間の届出期間が設けられた。しかし、例年通り立候補者はなかなか出ず、そうでもない。現在、生徒と企画部（彼ら自身も生徒だのではあるが）とが話し合える場は、ひとつは生徒委員会。いまひとつは、生徒総会である。しかし生徒委員会と各HRとのつながりは、あまりにも形式化し、アイマイである。しかも意見があるにしても、委員を仲立ちにしなければならないと共通語云々しているわけではないが、ここにも会員との断層が生じているキザな部と思っている人がいるという事実がある。ところで、現在、HRは自習時間と化し、生徒会員の報告に耳を貸す者はほんのわずかである。会長選挙等の集会には必ず豆単を持って行き、単語の暗記に専念。そんな者が多くなってきたのである。そんな者にとって生徒会活動等は大事な時間を横取りする邪魔者であり、それに専念する人は次元の異なる人物なのである。ここに企画部への反感が生じ大きな断層が生じたのだと言えば果して暴論だろうか。しかし、生徒会員にすべての責任があるのかと言うと会長副会長に二名ずつが立候補したに過ぎなかった。一名ずつのため選挙も信任を問うという方法で投票が行なわれたが、会長候補の渡辺君は三六五票で不信任、副会長候補の小島君は五〇四票で信任という結果であった。この選挙で能高生がいかに生徒会に対して無関心なのかが改めて痛感した。それは我々の中で、棄権したものが実に二百余名もいたという事実である。これは、一部の生徒や選挙関係者に波紋を残した事は確かである。この選挙で会長が決まらなかった為、規約により各クラスの代表者で、会長の席を争う事になった。そして選挙は、先月十七日のHR時に行なわれ、候補者に二G渡辺正志君（二三二票）、一E蓬田孝子さん（二八票）、二D工藤公英君（二一〇票）の三人が当選した。この三人の中から後期生徒会会長が誕生する。



副会長の小島君

一大転機!! 能高生徒会

我校の生徒会活動状況と言うと大外の生徒は「停滞」だという。最後には「企画部は何をしているんだ」と言う。また役員も「生徒が無関心だからだ」と言う。これでは水掛論になってしまう。現在の生徒会と生徒の間には、こんな水掛論的なやりとりが行なわれていると思う。そこには、生徒同士の団結も、生徒会の必要性も感じられない。能高生一人一人に団結という心があるなら、先の選挙の今後の選挙のあり方、生徒会の最も望ましい姿というものをよく考える必要がある。「俺には無関係だ」と言わずに。

ここで先の選挙で副会長に当選した二Bの小島君に所信をのべてもらった。「生徒会なんかない方がよい。少なくとも現在の我校の生徒会のようなものは早くつぶしてしまう方がよい。生徒会というものは、全校生徒が当然持つ得る自治の権利を要求した時に始めてそれがそれであり得る。現在の事務的生徒会からおよそ程遠い。だから、今までこの様な生徒会を存続させたのは諸君の重大な誤ちである。

私がこの様に主張すると、先日の選挙の際、私に不信任投票をした諸君はそれみろ俺のした事はお前の意見にピッタリじゃないか〃と言うかも知れない。しかしもし、生徒会が私の言うようになくなっても、それで事は解決しない。諸君の自治の権利、しかも社会生活において直接民主主義の唯一の形態である学校生徒会の一員たる権利は、宙に浮いたままになるだろう。将に私が主張したいのは、この権利が所有する諸君の自覚を待つということである。諸君がこの権利を行使すべき生徒会に関心が薄いというのは嘘であって、むしろ関心を持たないようにさせられているというのが本当であろう。諸君、もったいないではないか。宝の持ち腐れでは〃私が副会長になったのは一言言いたかった為である。権利は活用するものである。

しかし、現在のような形式化した生徒会がきてしまったのには諸君の自覚を妨げる何らかの理由があったと認めざるを得ない。それは・・・我々の校内外の様々な制約であり、もしくは見えざる日常生活における弊害であるかも知れない。（非常に漠然な言い方で恐縮）しかしこの事こそ、まもなく社会に巣立つ人間として、根本的に考えなければならない問題である。この問題意識を高め、互いの討論の場を設けてこそ、先に述べた生徒会を必要とする要求が自然発生的に生まれてくる。（ここでは具体的問題は提起しない。）

では、いかにして問題意識を生み出すか。それは信頼おけるマスコミニケーション、つまり生徒の手による事実を報道する機関、新聞部に依るより他にないであろう。しかし、少人数であるからして、全校生徒の意見を反映できないうらみがある。そこで副会長として、いや、一生徒として提案したいのは、全生徒の任意代表による新聞委員会の設置である。このことは、近いうちに生徒委員会を開いて討議する予定である。

諸君、我々の回りは非常に緊迫感であふれている。我々がある物事に対して抱く考えや意見は、多くの人の意や、書物を見聞し、討論して、始めてその価値が評価される。ひたすらに沈黙することは、社会生活において非常な不幸と思う。」

期末考査終わる!!

各休みを目の前にして、本校恒例の学期末考査が十二月十七日よりきょうまでの四日間行なわれた学期最後の考査だけに各生徒共、特に苦てな科目に取り組んでいる様子であった。

渡辺君会長に

十月一日の公示から延々二ケ月ほどにも及んだ会長選挙は、結局二G渡辺正志君が、一E蓬田孝子さんに四八票の差をつけて、当選し、空席だった会長の座につき、四回にもわたる今回の一連の選挙は終わりを告げた。そして、渡辺――小島のコンビによる新しい生徒会活動が開始された。これで心配されていた生徒会も、一応形を整えた。しかし、一・三年で落選者が渡辺君よりも多くの票を得ており、また、落選者との差がわずか四八票であることなどで前途は必ずしも楽観ともない様相にある。しかも、渡辺君は、一回目の選挙で不信任になっているだけに、果たして会員の信頼を得ることができるだろうかという懸念の空気がないわけではない。

当選　渡辺正志　蓬田孝子　四八四票
投票総数　一〇〇〇票
無効　四六票

▼お詫び▲

この面で、目付が多少くい違う面があります。そこの部分を玩味して読んでください。

委員長に山崎君

巨濤の編集始められる

去る十一月二十七日第一回目濤の編集委員会が開かれ、編集委員長に二C山崎敏文君が選ばれた。編集は、来年の二月二十日の発行をメドに開始された。なお、ページ数は六十ページ前後になる見込みとのことである。現在編集委員は、各HRの庶務係と企画部を合わせて十六名（内一年生四名二年生十二名）内容は盛だくさんで、特に新しいページとして「HRプロフィル」また、夏に三年A組とE組のメンバーで構成されている。

二B小島四郎、三浦嘉宏、二C山崎敏文、伊藤睦子、二D加賀千恵、二E佐々木忠雄、神田岸一、二G渡辺正志、川口郁子、高原ひろみ。

行なった「HR合宿」の様子等が掲載されることになっている。編集委員会が、一般生徒に望んでいることは、表紙の図案を考えてもらいたい。また、巨濤を編集する為にも必要な座談会に進んで参加してもらいたいとのことである。自分で進んで編集を手伝いたい人は、係の生徒まで話してほしいとのことである。巨濤の経費は、生徒会予算でまかなわれる。おもな編集委員は次の通りである。

学生のみせ
キムラヤ
はたまち　2－5535

三点

▼寒さがきびしくなるにつれ、三年生は不安を胸にいだかずにはいられまい。一、二年生も高校進学の時、今の三年生のような不安を背負って勉強したにちがいない。一体不安とは何なのか?。その正体を考えてみたい。▼われわれは現在、不安の時代を生きており不安の兆候は周囲に満ちている。特に日本人はせまっくるしい島国のお国がら不安傾向を民族として持っているのかもしれない。▼死に対する不安、政治に対する不安、大学に対する不安etc。数限りない不安が、社会が進歩するにつれ複雑化かつ多様化して、われわれの心をおびえさせている。▼不安起源について、精神分析派は幼児期の無力と依存の事実を覚することから生じ、他者からの行為の制限と罰によって強まるとする。これに対して学習論者は苦痛を避けようとする生得的傾向である刺激に苦痛を感することからそれへの不安が生ずるとする。また、不安には何か恐しいことが起ろうとしているという漠然としているものがある。このような不安は神経症や精神障害者の特有な兆候である。また、一時的、状況的に感じられるものと、持続的に不安をおこすものとがある。というこが其雑誌に記載されていた。▼われわれ人間の住む世界から不安は永久に取り除かれないものだろうか、不安が前述のように社会（化学、情報機械etc）が進歩するにつれ、人間の不安心理も複雑化かつ多様化していくのだろうか。そうだとすれば、不安があらゆる現象を生み、やがては人類がすべて精神異常者となるだろう。▼しかし人間は不安を自分の向上に、目的達成に利用することができるはずだ。▼不安は自分の存在と価値とを認めてまうこともでき、精神異常者にもしてしまう。反面、自分が人間としての完成へ近づくこともできる。われわれは不安を建設的に利用すべきである。

X'mas デコレーションは ルミエールで
配達OK!
生クリーム専門
LUMIERE
洋菓子の店
ルミエール
能代市駅前北高通り　TEL(2)4648